

「うた乃」春先の管理について(2月24日現在) **New!**

農業研究所にて9月24日に定植した「うた乃」(9cmポット、二次育苗法)では第1次腋果房(2番)の収穫が終盤となり、第2次腋果房(3番)も収穫開始しています。草丈は20cm程度で、新葉が動き始めました(写真①、②)。

第2次腋果房(3番)の果形は、一部の果実先端で種子が密集しているような果実(写真③)はありますが、先青果や縦溝果は見られません。先月お伝えしたとおり、3月以降に縦溝果や空洞果、割れる果実が発生することがあり、厳寒期から春先の窒素過多の影響が考えられますので引き続き注意してください。

厳寒期を過ぎ、日中の気温も上がる日が多くなってきましたので換気に注意してください。給液管理も**急激な管理**で草勢を旺盛にしすぎず、灰色かび病にも注意してください。

また、芽数が増えてきますので基本2芽管理とし、繁忙期となる3月以降もできる限り3~4芽以内に抑え、株あたりの花房数が多くなった場合はしっかり摘果を行ってください。味落ちがしやすい時期でもありますが、摘果をしっかりとすることで糖度の低下を抑えることができます。

【参考】農業研究所での給液管理は、排液量が大きく減っていないため厳寒期と同様の1日5分(朝3分、昼2分、約170ml/日/株)のままですが、そろそろ増やします。給液濃度は約0.6mS/cmです。



写真①：株の様子



写真②：2芽株の様子



写真③：第2次腋果房の頂果

「うた乃」生育状況（農業研究所2月24日撮影）